

学生の歌唱指導能力向上に関する一考察 －「3分間マエストロ」実践を通して－

小林 恭子

(人間学部児童教育学科)

A Study of Teacher's Specialty Improvement in Teaching Singing － Through Practice of “Three Minutes Maestro” －

Kyoko KOBAYASHI

(Department of Childhood Education and Welfare, Faculty of Human Sciences)

本報告は、「3分間マエストロ」で学生が行う歌唱指導におけるつまずきの改善法について、考察を行ったものである。「3分間マエストロ」は、学生らの指揮活動の経験を増やし、歌唱および歌唱指導能力を高めることを目的に行っている本学独自の実践である。学生が本実践で行った歌唱指導の内容を、現行の小学校学習指導要領音楽科に示されている「歌唱の活動を通して」指導する事項、および〔共通事項〕と照らし合わせた結果、その傾向と問題点が6点明らかになった。その中で「楽曲の気分や曲想を感じ取るための手段がわからない点」および「体を動かす活動（身体表現）が、歌唱活動の学びにつなげられない点」に着目し、改善の手だてを先行研究から検討した。そして、より学びの多い「3分間マエストロ」活動を行うために、今後の課題を明らかにした。

キーワード：小学校教員養成、歌唱指導、3分間マエストロ、共通事項、曲想、身体表現

はじめに

これまで、小学校教員養成を目的とする高等教育機関における音楽実技教育について、実践を通して研究を進めてきた。まず、小学校の現職教員を対象にアンケート調査を行い、「積極的に音楽を楽しむ感性」「即興的な弾き歌い力」「基礎的な読譜力」の必要性と、「教師自身が音楽的感性を高め、音楽を楽しむこと」の重要性を明らかにした（小林, 2013）。それをもとに、音楽の魅力を実感できる教材を用いて、楽しみながら効率よくピアノを練習する方法の考案や、読譜力を高めるための指導を行っている。そして、教育実習や教員になった際に直接活かせる発想や創意工夫、技能、知識の体得を目指

している。本報告は、その中の「3分間マエストロ」に焦点をあてる。「3分間マエストロ」は、学生らの指揮活動の経験を増やし、歌唱および歌唱指導能力を育てることを目的に行っている本学独自の実践である（小林, 2015）。

小学校における歌唱活動は、年間を通じて欠かせないものである。それは「音楽」の授業だけでなく、式典及び全校集会で歌う国歌や校歌の他、季節の歌などさまざまな行事や活動において重要な役割を果たしている。しかし、前述のアンケート調査の結果では、経験不足や自信のなさから、歌唱指導に対して苦手意識を持っている教員が多いことが判明した（小林, 2013）。音楽はその経験量や知識にかなりの個人差があるという問題点がある。例えば、本学児

児童教育学科の学生は、高等学校までの音楽経験者が少ない。平成28年に在籍している1・2・3年生のピアノ経験率は3割程度¹であった。音楽系のクラブ・部活動に所属していた学生を含めても経験豊富な学生は少数である。したがって、スタート時点から大きく差がある学生らに対して、基礎的な音楽技能を身につけさせた上で、実践的な指導力まで身につけさせることは大きな課題である。

本報告は、学生の歌唱指導能力の向上に焦点をあてる。これまでの「3分間マエストロ」を振り返り、学生が指導する内容の偏りおよび歌唱指導における問題点を洗い出し、苦手を克服するための手だてを先行研究から探る。そして、学生が今後の歌唱指導場面において有効な方法が体得できるような「3分間マエストロ」の在り方について考える。

1. 「3分間マエストロ」の変更点と具体例

(1) 内容の変更点

「3分間マエストロ」の名称と経緯および概要については、『高等教育研究』Vol.21を参照されたい(小林, 2015)。ここでは、それ以降に変更した点について述べる。

以前の初回授業は、基本的な拍子の振り方のみを指導していたが、表情豊かな指揮ができるよう強弱の表現まで取り扱うようになった。また、基礎内容のうち、低学年・中学年対象の楽曲集に限定して、選曲させている。ただし、曲集外の楽曲を選びたいという希望があった際は、教員と話し合っただけで検討させている。

(2) 具体的な内容例

実際に、学生が「3分間マエストロ」をどのように行っているか、2016年春学期「初等教科教育法(音楽)」で行われた学生2名の例を取り上げる。両者ともに、授業内でのビデオ録画から、内容を追っている²。

1人目は、歌うことが好きで、普段から児童館などでボランティア活動を活発に行っている学生である(2016年6月実施)。特にピアノの経験や音楽系の部活動経験はない。小学校3年生を対象に、学習発表会の劇で最後に歌う歌の練習という設定で、指

揮および歌唱指導を行った。用意した資料は、自ら作成した歌詞カード(譜面なし)である。まず、指揮をしながら独唱(範唱)した後、その範唱と歌詞から「この曲で一番大きく歌うところはどこか?」という発問を行った。さらに、ある箇所で簡単な身体表現を行うよう指示し、その部分のみ児童役の学生と歌いながら練習を行った。最後に全員起立させ、「大きく歌うところ」と身体表現に気をつけさせながら歌唱活動を行った。その際、この学生も一緒に歌いながら指揮を行い、身体表現の部分のみ指揮をやめて自らお手本としてその動きを行った。

2人目(2016年7月実施)は、外国語の歌を選曲した。用意した資料は、外国語の歌詞にカタカナで発音をふった楽譜である。まず、そのメロディーがよく知られていることについて触れてから範唱を行い、歌詞の意味について説明を行った。範唱は、音楽にあわせて自由に手や体を動かし、表情豊かに行っていた。その後、1フレーズごとに範唱を行い、児童役があとについて歌う練習を2回行った。この歌は、1フレーズごとに反復する交互唱形式だったため、結果的に2回の練習を行うことができた。最後に、通して歌わせたが、その際意図的に自らは歌わず指揮のみを行い、児童役が外国語の歌詞が歌えているかどうかよく聴き、評価をしていた。

両学生とも、非常に伝わりやすい話し方および歌い方で、指導したい内容が明確であった。そして、児童役の実態を逐次把握し、「わかる授業」をこころがけ、積極的に児童役を褒めていた。さらに、前者の学生の行った資料作成や身体表現などの工夫は、その後続く学生らの見本となっていった。後者の学生は、指揮や伴奏を入れるタイミングなどを状況に合わせて意図的に変えており、前述したように練習も多く行うことができ、内容的に評価できるものであった。

これらの取り組みを継続的に繰り返すことにより、わかりやすく取り組みやすい歌唱指導について、学生は身をもって学ぶことができる。そして、前の学生のよかったところから体験的に学び、自分の力につなげている。

2. 学生が行った歌唱指導における傾向と問題点

(1) 学生が行った具体的な指導内容

1.(2) で取り上げた具体例や、小林（2015）の調査結果から「3分間マエストロ」が歌唱の活動として有意義であることはすでに明らかになっている。しかし、この活動を通じて、より歌唱指導能力を向上させたい。そこで、2016年春学期の「初等教科教育法（音楽）」における「3分間マエストロ」をもとに、64名の学生が行った「3分間マエストロ」の歌唱指導内容の傾向を分析し、問題点を明らかにする。

各学生の選曲は表1の通りである。そして、表2は各々が行った指導内容の詳細である。これは、最終授業の際に本人たちに提出させたものおよび録画ビデオから洗い出した³。そして、これらの指導内容を分析するために、現行の小学校学習指導要領音楽科に示されている「歌唱の活動を通して」指導する事項、および〔共通事項〕を観点に分析を行う。

「歌唱の活動を通して」指導する事項は、学習指導要領音楽科の内容「A表現」の(1)に示されている。児童の基礎的な歌唱能力を高めるために必要な事項アから事項エの4つの指導内容が、2学年毎にまとめられている。事項アは「音楽を聴いたり楽譜を見たりして歌うこと」、事項イは「曲想を感じ取って歌唱の表現を工夫し、自分の思いや意図をもって歌うこと」、事項ウは「歌唱の活動を支える歌い方を身につけるとともに楽曲に合った表現をすること」、事項エは「声を合わせて演奏すること」である。そして、それらの事項は〔共通事項〕との関連を十分に計って指導していく必要がある。

表1 学生の選曲リスト

選択曲	選択曲
1 両只老虎	33 歌えバンバン
2 さんぼ	34 こぶたぬきつねこ
3 きらきら星	35 森のくまさん
4 南の島のハメハメハ大王	36 山の音楽家
5 手をたたきましよう	37 たなばた

6	かもつれっしゃ	38	やぎさんゆうびん
7	あめふりくまのこ	39	小さな世界
8	しゃぼんだま	40	ロンドン橋
9	きらきら星	41	やぎさんゆうびん
10	かえるの歌	42	たきび
11	夕やけこやけ	43	ミッキーマウスマーチ
12	グッデイグッバイ	44	世界中の子どもたちが
13	おぼけなんてないさ	45	パフ
14	大きな古時計	46	きらきら星
15	ロンドン橋	47	歌えバンバン
16	小さな世界	48	エーデルワイス
17	北風小僧の寒太郎	49	ふじさん
18	運動会の歌	50	森のくまさん
19	手のひらを太陽に	51	幸せなら手をたたこう
20	さんぼ	52	かぼちゃ
21	ピクニック	53	やまびこさん
22	赤とんぼ	54	おおきな歌
23	おかしなすきな魔法使い	55	ピクニック
24	きょうりゅうとチャチャチャ	56	君が代
25	ふるさと	57	南の島のハメハメハ大王
26	ジングルベル	58	ドレミの歌
27	まっかな秋	59	春が来た
28	君が代	60	こいのぼり
29	ちゅうりっぷ	61	めだかの学校
30	かたつむり	62	おもちゃのチャチャチャ
31	うみ	63	とんでったバナナ
32	大きなくりの木の下で	64	そうだったらいいのにな

表2 学生が行った指導内容

	内容（自己申告）
1	歌詞（外国語）を覚えてほしい
2	①音を切るところ②楽しく歌おう③背景を想像してみよう
3	①休符はしっかり「ウン」と止める②「まばたき…」のところはお星様になりきって③上から「みんなを見守っているよ」という気持ちに。
4	ウン（休符）と伸ばすところと元気よいところ
5	手をたたくところ、足踏みをするところを日本語におきかえ、リズムを理解させた
6	①元気よく歌う②休符のところは列車が止まる場所だからしっかり休んで③大きく体を動かして。

7	①歌詞から物語の風景を想像する（絵を掲示して）②付点をスキップのリズムに合わせる
8	①休符②元気に③場面を想像して④歌う姿勢
9	①休符について、休むところ②リズム、音を発しない（切る）点について
10	①休符②輪唱
11	①情景を思い出すように②声を大きく
12	その歌の情景などが頭にうかび、曲想に合った歌い方が可能になるアドバイスをおくった。
13	「怖いな」のところで「怖い」を表現する。
14	「チク・タク」のところを振り子時計になったつもりでリズムミカルに歌うようアドバイスしました
15	遊びながら歌う（くぐり遊び）
16	①大きな声で歌う②元気良く歌う
17	①寒さに負けないような元気な歌声で元気いっぱい歌う②寒太郎を迎え入れるような気持ちで歌う
18	①明るく、元気よくうたう！②勝つぞという気持ちでうたおう！
19	簡単な振り付けを教えて元気良くやるように
20	①元気良く！②楽しく歌う！③足踏みしながら
21	①大きな声で歌う②楽しい歌なので振り付けをつけながら楽しんで歌う③自由に表現しても良い場面では自由に表現している。
22	「明るく元気に」ではなく「切ない・さみしい」気持ちでうたうことにチャレンジしよう！と言いました
23	①魔法が失敗して悲しい気持ちと成功して嬉しい気持ちを考えながら歌う②セリフは大きな声で言う。
24	①楽しく元気よく歌う②歌の情景を思い描かせる③4拍子に手拍子を入れるだけ入れる
25	（卒業式で歌う設定で）思い出を思い出しながら歌おう
26	情景を考える
27	秋らしさを想像してもらい、その気持ちのまま歌ってもらった
28	曲想を感じ取りながら歌うように
29	情景を思い浮かべながら元気に可愛く歌うこと。
30	リズム、歌詞
31	①大きな海を想像して②ゆっくり歌う
32	元気よく
33	①前半は手拍子でリズムよく、後半はのびのびと元気よく歌う②ふりつけ③アイアイの意味
34	元気にうたう
35	①手でリズムを取りながら楽しく歌う②くまさんと友達になれるよう楽しく歌う
36	リズムよくするために実際に弾いている様子を再現する
37	曲の気分をイメージしてうたう

38	歌の技術よりも振り付けを指導し、楽しむようにアドバイスをした。
39	手をつなぐことでみんなは同じ人間で助け合って笑い合おうということ意識してもらいました。
40	①大きな声で②歌詞を理解し③続きを考える
41	①元気よく歌う②歌詞の内容が分かるようにする
42	①たのしそうに歌う②「びいぽう」の表現方法
43	①大きな声で②あかるく笑顔で！
44	①背筋を伸ばして口を大きくあける②リズムを意識して歌う③手話を使って楽しく歌う
45	①大きな声②プレスに注意させる③イメージさせる
46	①笑顔で②ふりつけ③楽しく
47	①特定の部分（バンバン）の歌詞を元気に歌うこと②口を大きくあけて歌うこと
48	①大きく口をあけて姿勢を正して歌うこと②エーデルワイスの情景を頭の中に浮かべて歌うこと③花言葉を頭に入れて歌うこと
49	①大きな声②遠くに③富士山になりきる
50	①明るく大きな声で歌う②姿勢に気をつける③先生に続くように（問いと答え）④情景を思い浮かべる
51	①明るい表情で歌う（最近あった嬉しかったこと、楽しかったことを思い出そう→笑顔②手をたたく部分は近くの友達とやろう
52	①皆で力強くかぼちゃを引っ張る曲だから大きな声で（特に最後）②実際に皆でかぼちゃを引っ張ってみよう（表現）
53	やまびこの本来の意味を考えて動きまで真似をするように。
54	①交互唱②「おおきなうた」だから大きな声で
55	①たのしく元気にうたおう②動物の鳴き声を体を動かしながら表現しよう
56	①大きな声で②遠くの壁に声をぶつけるように
57	①口を大きくあけて②姿勢をよく
58	①口を大きくあける②大きくはっきりうたう③元気に歌う
59	提出なし
60	休符に気をつけるように伝えた
61	繰り返しのところでは、1回目と2回目の表現の仕方を変える
62	リズムの取り方
63	リズムを手拍子で教えた
64	記載なし

〔共通事項〕は、ア・イの2つの事項で示されている。〔共通事項〕アは、音楽を形作っている要素のうち、(ア)「音楽を特徴付けている要素」および(イ)「音楽の仕組み」を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ることに

いて示されている。また、〔共通事項〕イは、「第3 指導計画の作成と内容の取り扱い」2 (6) に示された音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を、音楽活動を通して理解することについて示されている。それらの要素を表3に示した。

以上をふまえて、学生の選曲(表1)および内容(表2)と、「歌唱の活動を通して指導する事項」・〔共通事項〕を照らし合わせた結果が、表4である。なお、表4の空欄は該当する事項や要素がなかったことを示している。

表3 共通事項の要素

〔共通事項〕ア		要素
(ア)	音楽を特徴付けている要素	音色・リズム・速度・旋律・強弱・拍の流れやフレーズ・音の重なり・音階や調・和音の響き
(イ)	音楽の仕組み	反復・問いと答え・変化・音楽の縦と横の関係

表4 歌唱の指導事項と共通事項の照らし合わせ

	指導事項	共通事項		指導事項	共通事項
1	ア	問いと答え	33	イ	リズム
2	ア・イ	休符	34	イ	
3	ア・イ	休符	35	イ	リズム
4	ア・イ	音符・休符	36	イ	リズム
5	ア・イ	リズム	37	イ	
6	ア・イ	休符	38	イ	
7	ア・イ	リズム	39	イ	
8	ア・イ・ウ	休符・強弱	40	イ	強弱
9	ア・ウ	リズム・休符	41	イ	
10	ア・エ	休符・音の重なり	42	イ	音色
11	イ	強弱	43	イ・ウ	強弱
12	イ		44	イ・ウ	リズム
13	イ	音色	45	イ・ウ	強弱
14	イ	音色・リズム	46	イ・ウ	
15	イ		47	イ・ウ	強弱
16	イ	強弱	48	イ・ウ	
17	イ		49	イ・ウ	
18	イ		50	イ・ウ・エ	強弱・問いと答え
19	イ	強弱	51	イ・エ	
20	イ	リズム	52	イ・エ	強弱・問いと答え

21	イ	強弱	53	イ・エ	問いと答え
22	イ		54	イ・エ	問いと答え
23	イ		55	イ・エ	問いと答え
24	イ	リズム	56	ウ	
25	イ		57	ウ	
26	イ		58	ウ	強弱
27	イ		59		
28	イ		60		休符
29	イ		61		強弱・反復
30	イ	リズム	62		リズム
31	イ	速度	63		リズム
32	イ		64		

(2) 歌唱の活動を通して指導する事項との関連から見る傾向

学生が行った歌唱指導の内容の傾向と問題点を分析するために、表4に示された歌唱指導事項について、事項ア～エに分類した人数を表5にあらわした。

表5 学生が選択した歌唱指導内容の傾向

	項目	数
事項ア	音楽を聴いたり楽譜を見たりして歌うこと	10名
事項イ	曲想を感じ取って歌唱の表現を工夫し、自分の思いや意図をもって歌うこと	52名
事項ウ	歌唱の活動を支える歌い方を身につけるとともに楽曲に合った表現をすること	13名
事項エ	声を合わせて演奏することを通して、基礎的な歌唱の能力を高めること	7名

表5を見ると、64名中52名の指導した内容が、事項イに偏る結果になっている。事項イは、情景や気持ち、楽曲の気分を感じ取らせて、その曲想にふさわしい(生かした)表現を工夫し、思いや意図を持って歌わせる内容であり、その指導はとても重要である。しかし、多くの学生らが実際に行ったことは、表2からわかるように「楽しく」「元気よく」という漠然とした「歌う時の心構え」や、何の手だても用意せず、発問するでもなく、ただ「情景を想像して歌いましょう」と指示するだけのものであった。他の指導内容が思いつかなかったり、苦手意識を感じたりして、この方法しか思いつかない学生も

多くいた。また、様子や曲想に合わせて体を動かす活動を取り入れた学生も多くいたが、教えたい指導内容に即した動きというより、振り付けが主目的になるケースも多かった。また、就学前施設で行うような「手遊び」だけで終わってしまうケースもあった。

次に13名が指導した事項ウは、楽曲にあった表現に必要な基礎的な歌い方を指導する内容である。これは、主に発声指導に近い内容（姿勢・呼吸・響き）に触れた学生をカウントしたが、多くは歌う時の「姿勢」を注意したケースと「口を大きく開けて」という指示を出したケースであった。両者とも有効な指示ではあるが、さらに特定の歌いづら箇所などを把握し、その技能指導をその場で行うことが望ましい。しかし、歌唱経験の少ない学生にはこままでの指導は難しい。

10名が指導した事項アは、楽譜中の音符や休符、記号の指導を行ったケースである。楽譜は用意したものの、特にそれについて触れていないケースはカウントしていない。この項目における問題点は、譜面の「休符」に着目させた学生を真似る学生が頻発したことである。「休符」は重要なことではあるものの、歌唱の中で自然に行うことが理想的である。楽譜中の「強弱」を示した学生もいたが、いずれにせよ、「休符があるからここを切って歌いましょう」「フォルテが書いてあるから強く歌いましょう」という指導ではなく、歌唱の中で自然に教えることが重要である。また、「休符」「ブレス」「強弱」以外にも楽譜には多くの情報が書かれているが、それらを読み込むためには多くの音楽経験を通してより高い読譜力をつける必要がある。

最後に、事項エの「互いの歌声や副次的な旋律及び全体の響き、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う能力を育てる」内容は7名と少なかったが、輪唱や交互唱で声を合わせて歌う内容を取り入れていた。少なかった理由は、低学年・中学年向きの歌唱曲集から選んだことや、時間がないため合唱ができないことなどがあるだろう。しかし、斉唱であっても、全員で声を合わせて歌うことに意識を集中させたり、全体の響きを聴き取らせたりすることはできる。

(3) 共通事項との関連からみる傾向

表6は、表4の〔共通事項〕に示されている要

素と学生が指導した内容を照らし合わせたものから、その要素を選んだ学生の数である。

64名の履修学生がいたが、〔共通事項〕の要素と照らし合わせると、表6の通り、音楽の要素を指導できている学生はごく少数であった。その曲に一步入り込み、音楽的な特徴や表現の工夫を具体的に指導できる学生が少ないということである。

表6 学生が歌唱指導の際に扱った音楽の要素

共通事項項目	要素	人数
共通事項ア（ア）	音色	3名
	リズム	13名
	速度	1名
	旋律	0名
	強弱	13名
	拍の流れ	0名
	フレーズ	0名
	音の重なり	1名
	音階	0名
	調	0名
	和声の響き	0名
共通事項ア（イ）	反復	1名
	問いと答え	6名
	変化	0名
	音楽の縦と横の関係	0名
共通事項イ	音符 / 休符 / 記号	8名

まず、13名の学生が触れた要素は、「リズム」であった。その歌に見られる特徴的なリズムについて、手拍子でとってみたり、別の言葉をあてはめたり、とさまざまな工夫が見られた。実際は、工夫しすぎて、反対に難しくしてしまったケースが多かったが、そこに着目したことは評価したい。

同じく13名の学生が触れた内容が、「強弱」であった。しかし実際は、多くの学生が「大きな声で歌いましょう」という指示であった。確かに、大きな声で歌うことは意欲や関心のあらわれではある。しかし、大きな声だけでなく小さな声も表現の一部であるし、大きな声が正しいわけではない。声色に強弱をつける理由や、声量を調節する方法を、提示できるようにしたい。例えば、「一番伝えたい歌詞だから、フォルテで大きく歌いましょう」というような、フ

レーズや歌詞の内容に関連した指導であることが望ましい。

また、「問いと答え」は、(2)の事項エで述べたように交互唱や輪唱に取り組みさせた指導内容である。その他、「音色」や「速度」、「音の重なり」については、少数が触れていた程度であった。

(4) 学生の行った指導内容における問題点

以上をふまえて、学生の歌唱指導の偏りおよび問題点を以下の6点であった。

- ① 楽曲の気分や曲想を感じ取るための手段がわからない点
- ② 体を動かす活動（身体表現）を、歌唱活動の学びにつなげられない点
- ③ 発声指導、技能的な指導ができない点
- ④ 歌唱活動を活かす視唱の効果的な方法がわからない点
- ⑤ リズムの特徴を感じながら歌わせる手段がわからない点
- ⑥ 「大きな声で歌いましょう」に偏る点と、その理由や方法を示せない点

なお、前の学生を参考にするため、同じような指導内容に偏りやすいことや、時間に制限があることなど、「3分間マエストロ」の実践方法の問題点については、また別の機会に検討して改善していきたい。

3. 問題点を解消するための手だて

2の(4)で明らかになった学生の歌唱指導における問題の一部について、その解決の糸口を考察する。ここでは、「①楽曲の気分や曲想を感じ取るための手段がわからない点」および「②体を動かす活動（身体表現）を、歌唱活動の学びにつなげられない点」の2点を取りあげる。

(1) 楽曲の気分や曲想を感じ取るための手だて

歌唱は、感性や想像力が重視されるため、「情景を想像して歌いましょう」というような抽象的な指導が多くなる。この問題点は2点あり、そう指示しただけで具体的な手だてなどを示さず、ただ歌うだけで終わってしまう場合と、具体的な手だてとして説明や話し合いを多くしたために結果的に歌唱がおまけのようになってしまう場合である。歌詞を想像させるために、意味や印象を児童に発問したり、絵

や写真を用意して情景を想像させる時間を多くとりすぎたりすると、説明的になりすぎて、歌を歌う時間が短くなってしまふ。桂・佐川(2006)によれば、歌唱指導の際に、歌の情景についての指導を行ったクラスと、歌唱指導のみを行ったクラスの児童に質問紙調査を行って比較した結果、後者の児童の方が歌に対して肯定的な感情を持つようになったという。歌うことと情景を想像することは別の行為で、両者を統合して同時に行うことは難しいため、過度な情景の指導については再検討すべきだと述べている。このことからわかるように、実際に歌いながら楽曲の気分や曲想を感じ取らせた上で、歌詞にも着目させることが大切である。

それでは、歌唱活動の中でどのように楽曲の気分や曲想を感じ取らせ、歌詞にも着目させることが望ましいのだろうか。奥田(2015)は、低学年の歌唱共通教材8曲を、表7の4つの「楽曲の気分」に分類した。

その4つの分類のうち、「3分間マエストロ」で学生が選択した低学年・中学年向けの歌は、主に「リズムカル、または遊びを表す明朗な気分」に関連する楽曲と、「穏やかな気分」を表す楽曲に2分される。

まず、「リズムカル、または遊びを表す明朗な気分」に関連する指導は、遊びを行っている様子を想像して歌わせたり、実際に遊びに準ずる動きをつけさせたりすることができる。これらは、動きを歌に取り入れることで、その気分をそのまま歌で表現することにつながる。

次に、「穏やかな気分」を表現するためには、奥田は次の2点を明らかにしている。1点目は、何らかの歌唱技能を指導する必要があるということ、2点目は、気分を表現するための体の動きを伴った活動を行わない場合が多いことである。「穏やかな気分」を具体的に感じ取る手法としては、やはり、歌詞の音読、周囲の情景の説明やイメージ、視覚的なアプローチがよいという。しかし、それは前述したように説明的になりすぎるのではなく、歌唱活動の中で1つ1つとりあげていくことが望ましい。また、クレッシェンドやデクレッシェンド、レガート等を表現するための歌声づくりは、曲想表現から取り組むことが望ましい。さらに、歌詞の心情を理解することで、自然にいわゆる頭声的発声になったり、や

わらかい声色で歌ったり、というような指導につなげることができる。

表7 共通教材より見出された4つの気分と、4つの気分を基に分類した楽曲の一覧

気分	楽曲の気分が示す特徴	
リズムカル、または遊びを表す 明朗な気分	・明るく躍動感に富んでいる。 ・遊びを伴うことがある。	
	曲	「ひらいたひらいた」(第1学年) 「かたつむり」(第1学年) 「かくれんぼ」(第1学年)
穏やかな気分	・落ち着いた様子を表す。 ・ゆったりとした感じを表す。 ・静かな様子を表す。 ・優しい様子を表す。	
	曲	「うみ」(第1学年) 「夕やけこやけ」(第2学年) 「春がきた」(第2学年)
2つの気分をもつ	・「リズムカル、または遊びを表す明朗な気分」と「穏やかな気分」の両方の楽曲の気分をもつという解釈もできる。	
	曲	「虫のこえ」(第2学年)
子どもが描くイメージに準ずる	・楽曲の気分を導きだす手だてが少ないため、気分を割り当てるのが難しい。	
	曲	「日のまる」(第1学年)

(2) 体を動かす活動(身体表現)を歌唱活動の学びにつなげる手だて

次に、体を動かす活動(身体表現)を歌唱活動の学びに直接つなげる手だてについて考察する。ここでは、西沢(2011)の提示した〔共通事項〕と「身体表現」との結びつき方を明確にしたプログラムを参考にする。西沢は、〔共通事項〕の学習に効果的と思われる身体表現を取り入れた歌唱指導のプログラム案を、低・中学年の児童に対し実践した上で、より効果的と思われる身体表現を導き出した。表8・表9は、西沢らがこのプログラムを追試した後に、整理したものである。

表8 「音楽を特徴付けている要素」と「身体表現」との結びつき

共通事項 ①リズム	教材	「おもちゃのチャチャチャ」
	身体表現	手拍子、手で身体の部分を打つ動き、身振り
	児童の歌唱表現の違い	表情が柔らかくなり声も伸びやかに
共通事項 ②速度	教材	「こいぬのマーチ」
	身体表現	動物になって足ぶみ
	児童の歌唱表現の違い	動物をイメージすることで速度が理解しやすい
共通事項 ③旋律	教材	「夕やけこやけ」
	身体表現	指揮のような手の動き
	児童の歌唱表現の違い	どのように歌いたいか明瞭になり、相手にも伝えられる
共通事項 ④強弱	教材	「ひらいたひらいた」
	身体表現	遊び歌の動き
	児童の歌唱表現の違い	遊び歌の動きに合わせて自然に強弱がついた
共通事項 ④強弱	教材	「山びこごっこ」
	身体表現	人間と山びこ役の動き
	児童の歌唱表現の違い	強弱を理解しやすく歌の表現につながった
共通事項 ⑤ 拍の流れ ②④	教材	「ミッキーマウスマーチ」
	身体表現	足ぶみ、手拍子、身振り、お手合わせ、手で身体の部分を打つ動き
	児童の歌唱表現の違い	表情がやわらかくなり声も伸びやかになった
共通事項 ⑤ 拍の流れ	教材	「かっこう」
	身体表現	身振り
	児童の歌唱表現の違い	一体感のある歌い方になった
共通事項 ⑤ 拍の流れ	教材	「なべなべ」
	身体表現	遊び歌の動き
	児童の歌唱表現の違い	「伸びる拍」を感じ取ることができた
共通事項 ⑥ フレーズ	教材	「オーラリー」
	身体表現	ブレスを意識した指揮のような手の動き
	児童の歌唱表現の違い	歌のブレスに密接につながった
共通事項 ⑦音の重なり	教材	パートナーソングの歌 「グッドナイトレイディーズ」
	身体表現	縦ゆれと横ゆれの動きの組み合わせ
	児童の歌唱表現の違い	視覚的にも音の重なりを理解できた

共通事項 ⑦音の 重なり	教材	「雪のおどり」
	身体表現	4小節ごとに創作した動きの重なり
	児童の歌唱表現の違い	動きも追いかけてこになるので、表現しやすい
共通事項 ⑧調	教材	「こいぬのマーチ」
	身体表現	即興的な動き
	児童の歌唱表現の違い	即座に感じとる練習になった
共通事項 ⑨和声	教材	「はじめましょう」
	身体表現	静→動→静の動き
	児童の歌唱表現の違い	気を付け→礼から始めるといい

表9 「音楽の仕組み」と「身体表現」との結び付き

共通事項 ⑩反復	教材	「あいあい」
	身体表現	模倣の動き（1対多数）
	児童の歌唱表現の違い	模倣しながら歌うことで反復を学習できた
共通事項 ⑩反復	教材	「とんび」
	身体表現	反復の動き（一人で）（1対1）（1対多数）
	児童の歌唱表現の違い	さまざまな反復の表現ができた
共通事項 ⑪問いと 答え	教材	「かくれんぼ」
	身体表現	問いと答えの関係で遊んでいる動き
	児童の歌唱表現の違い	場面を思い浮かべながらの歌い方の工夫ができた
共通事項 ⑫変化	教材	「えがおで今日も」
	身体表現	AのまとまりとBのまとまり
	児童の歌唱表現の違い	形式を身体で感じ取りながら学習することができた

表8・9から、「3分間マエストロ」で学生が指導に取り入れることができる手だてが見えてくる。「速度」は、歌に登場する生き物を表現することで速度の学習につなげることができる。「旋律」は、指揮のような表現を取り入れることで、どのように歌いたいかが見えてくる。また、「強弱」は、強弱を表現しやすい歌を選び、遊びの中でその役割を表現することで自然に理解できる。「拍の流れ」は、指導側が歌に合った適切な身体表現を用意していれば、一体感のある歌い方になる。「フレーズ」を意識させる動きを指導すれば、そのまま自然にブレスや休符につなげることができる。

歌唱活動には適さない事項や、時間的な制約もあるため、すべてを「3分間マエストロ」に取り入れることはできない。しかし、これらが学生の実践力の1つになれば、現場に出た時に児童の興味・関心を引くことができるだけでなく、歌唱を通して音楽を形づくっている要素を体感させながら学ばせることができるだろう。

おわりに

本報告は、「3分間マエストロ」で学生の指導する事項の偏りおよび歌唱指導における問題点を明らかにし、その改善の手だてについて考察した。

まず、2016年度春学期における「3分間マエストロ」の基礎において学生の行った歌唱指導の内容を、小学校学習指導要領音楽科に示されている「歌唱の活動を通して指導する事項」および「共通事項」と照らし合わせた。その結果、学生の歌唱指導から見る問題点は、以下の6点であった。①楽曲の気分や曲想を感じ取るための手段がわからない点、②体を動かす活動（身体表現）が、歌唱活動の学びにつなげられない点、③発声指導、技能的な指導ができない点、④歌唱活動を活かす視唱の効果的な方法がわからない点、⑤リズムの特徴を感じながら歌わせる手段がわからない点、⑥「大きな声で歌いましょう」に偏る点と、その理由や方法を示せない点である。

そして、①および②の問題点を改善する手だてについて、先行研究から検討した。今後の課題は、ここで明らかになった改善法をどのように授業内に取り入れるかである。まずは、それぞれの内容や要素を体系的に示す必要がある。そこから、学生自身に気付かせつつ体験的に学ばせたい。

学生らが学校現場に出た時に、音楽活動、特に歌唱に苦手意識を持つことがなく、積極的に指導を行えるよう、小学校教員養成における「音楽」授業内容を現場性の高いものにしていきたい。

註

- 1 合計195名（男子109名、女子86名）中、ピアノ経験者は60名である。
- 2 ビデオ録画に際し、学生たちには研究・発表に使用する旨を伝え、同意を得ている。

3 2と同様に、同意を得ている。

《参考文献》

奥田順也（2015）「“歌唱共通教材”に着目した小学校低学年の歌唱指導についての一考察」、『玉川大学芸術学部研究紀要』Vol.7, pp.41-52

桂博章・佐川馨（2006）「歌唱の授業における情景の指導の効果について」、『秋田大学教育文化学部教育実践研究紀要』Vol.28, pp.23-32

小林恭子（2013）「小学校全科教員に求められる音楽的能力について」、『目白大学高等教育研究』

Vol.19, pp.1-11

小林恭子（2015）「音楽活動に積極的な小学校教員養成プログラム「3分間マエストロ」の事例報告」『目白大学高等教育研究』Vol.21, pp.135-142

西沢久実（2011）「共通事項の学習に結びつく身体表現活動：低・中学年の歌唱指導を通して」、『学校音楽教育研究：日本学校音楽教育実践学会紀要』Vol.15, pp.182-184

文部科学省（2009）「小学校学習指導要領解説 音楽編」

（受付日：2016年10月31日、受理日2016年12月27日）